

博物館 topics

『那覇の史跡・旧跡』

～みんなで歩こう Naha City～

那覇市歴史博物館では、現在、企画展を開催しています。4月25日(金)から5月28日(水)までの後期は、那覇小祿地区の史跡、旧跡を紹介いたします。

5月20日は、本市の市制施行記念日です。琉球王国時代の当時、港町として発展した那覇は、東村西村若狭町村泉崎村からなり、「那覇四町」とも呼ばれました。各村に役場も置かれていました。各村の役場の行政は、「親見世」という首里王府の役所が担当しました。

1879年(明治12年)、沖縄設置(琉球処分)により「那覇役所」が設置され、那覇四町の他に、久米村久茂地村泊村を加えた7村の行政を担当しました。当時の役人は、机・椅子に、歌舞大帯の琉装姿で、事務を行っていたといわれています。

1893年(明治26年)頃、那覇役所は、東村の旧大使館跡(現



▲当時の市役所の物見塔(大正8年完成)

期 3月15日(土)～5月28日(水) 費 一般 3000円

期 5月9日(金)～6月4日(水) 期 5月7日(水)まで

開館時間 10時～19時 木曜休館 ☎ 869-5266

那覇市立壺屋焼物博物館イベント情報

修復完了報告展 石厨子～門上秀叡・千恵子コレクション～

当館は昨年、非常に古い年号が刻まれた石製の厨子(沖縄の骨壺)を収蔵しました。この厨子は大きく破損していましたが、本年3月に修復が完了。修復完了の報告とともに、当館収蔵の石製の厨子を展示公開します。

期 4月26日(土)～5月6日(火) 場 3階 企画展示室 費 無料

國吉清雲展～陶芸家 國吉清尚へのメッセージ～

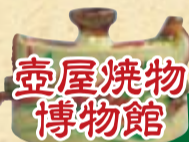
陶芸家國吉清雲氏による個展を開催。陶芸家であり兄でもある故國吉清尚へのメッセージと題し、清雲氏が制作した作品を展示します。また、併せて兄清尚氏の作品も数点展示します。(主催：國吉清雲)

期 5月13日(火)～5月18日(日) 場 3階 企画展示室 費 無料

学芸員と展示を見よう～常設展ギャラリートーク～

期 5月18日(日) 午前10時から30分程度 費 常設展の観覧料が必要です(市内の小・中・高校生は無料) 期 不要。当日、博物館1階受付前に集合して下さい。

開館時間 10時～18時(入館は17時半まで) ☎ 862-3761 月曜休館 ※ただし、月曜が祝日の場合は開館 FAX 862-3762



壺屋焼物博物館



▲國吉清雲作

那覇市歴史博物館 那覇の歴史・文化を体感!

協働さん

いらっしやい!



市民・事業者・行政が支え合う協働のまちづくりに取り組む団体、個人を紹介します。

第38回 切り絵作家 吉嶺 裕司さん

平和通りにある協働大使活動支援センター内の交流サロンでは、街の色んなイベント情報が収集できます。そんなサロンで、リーフレットが並ぶ一角に、ひまわりと置かれた「切り絵の昆虫」が訪れた人の目をひきつけています。 継ぎ目なしの一枚紙で作られたキリギリス。折り重なった羽やギザギザの足ピンと跳ね上がった触覚が繊細に表現され、昆虫好きにはたまりません。 この複雑な切り絵昆虫を作ったのが、今年の3月に協働大使になった切り絵作家の吉嶺裕司さん。子どもから大人まで一緒に楽しめる切り絵教室を福祉施設やイベント会場で開催しています。誰から習ったわけでもなく、幼い頃お父さんが連れていってくれた末吉公園や弁ヶ岳で見た



切り絵で現実世界を体感

虫たちを見よう見まねで色紙や広告のチラシで切り始め、いつのまにか、ここまでリアルに表現できるようになったそうです。 吉嶺さんが、活動を始めたのは1年前。地域の施設を飛び込みで訪問し、多くの子どもたちや地域の人たちとの出会いが協働大使の委嘱へとつながりました。 「切り絵は自分の原点。自然と向き合うことで、その価値に気付くことができたと自らを振り返りかえり「子どもたちには切り絵を通して、ゲームでは味わえない現実世界の触れあいを体感してもらいたい」と熱望する吉嶺さん。 切り絵体験が、地域のつながりを育む、いきつかけとなることを期待します。



お問い合わせ まちづくり協働推進課 ☎ 861-3846

歴史まじい



那覇市指定史跡 「美連嶽(ミンチラウタキ)」

美連嶽は、首里城御門から西へのびる綾門大道の西端に建っていた中山門跡地の南側にある御嶽で、俗に「ミンチラウタキ」と呼びます。『首里古地図』(一八世紀)には「免津良嶽」と記され、拜殿に描かれています。琉球王府時代は真壁大あむしら(三大女神官の一人)の管轄でした。拜殿については『球陽』の尚質王代の付の条に康熙年間、世子尚貞の時に(二六六二～二六六八)に創建された、その後も世子殿のお金で修繕されたと記されています。

王府時代は御嶽の東に御客屋・安国寺・玉陵が連なり、御嶽の前の大道には中山門が建ち、大道をへだてて世子殿(一八七五年に大中村へ移転)、大美御殿が連なり、一帯は王都の玄関口としての美観を呈していました。 昭和戦前期までは境内は広さ二五〇坪ほどのおだやかな起伏のある小丘で、一面芝生が広がり、東よりに高さ5m程の奇岩が直立し、その北面に接して低い石積みの門構をつくり、石香炉が置かれ、さらにその手前には拜殿跡の礎石が残されていました。奇岩の背後の斜面は境界に沿うようにして竜舌蘭(リュウゼツラン)や阿旦(アダン)などが東西に細長く茂り、そして境内は奇岩と芝生の調和する美しい庭園のようにも見えました(現在、その境内は六つに分筆されて民家が建ち、その間に御嶽の岩が残されています)。

お問い合わせ 文化財課 ☎ 917-3501

うちなーぐちや あじくーたー

息子：肝うらー きゅん

父：うらーき とーきよー

今月のテーマ

うらーきゅん

この言葉の意味は、水に浸す。食器などを洗う前に水に漬ける。ときなどに言います。また、「肝(うら)きゅん」は、心が洗われ清められるという意味になります。

父：うらーきゅんめ節なたんやー。とー、うちなーすば入ったるまかい、うらーきとーきよー。 娘：うらー、あり、庭んかい白く、黒色ぬ、那覇市ぬ市蝶オオゴマダラが飛どーいびーん。 父：赤色ぬ首里城とーう。うちやとーんやー。 息子：肝うらーきゅん。ぐとーうるないんやー。 (和訳) 父：旧暦の二、三月の季節だ。さあ、沖縄そばの入ったお碗を水に漬けてね。 娘：はい、あれ、庭に白黒色の那覇市の市蝶オオゴマダラが飛んでいますよ。 息子：赤色の首里城と似合うね。 父：心が癒やされるね。

【お問い合わせ】 那覇市文化協会 うちなーぐちや部会 桑江良勝 名嘉山秀信 ☎ 090-4347-8798

交通事故 相続 離婚 借金問題・過払金返還請求

相談して「良かった」という声を多数頂いております!!

ご相談は何度でも **無料**

代表社員弁護士 岡野 浩巳 当事務所は、企業法務にも力を入れておりますので、経営者の方もご相談ください。

～明日のためにできること、今あなたとともに。～
弁護士 岡野法律事務所
はいさい那覇支店 安本 良太
岡野法律事務所は代表社員弁護士 岡野 浩巳をはじめ8名の弁護士が所属しております。

フリーダイヤル ☎ 0120-55-7840
〒900-0023 沖縄県那覇市楚辺1丁目5番17号 プロフェスビル那覇2階
http://www.okano-okinawa.jp/

女性秘書が丁寧に対応させていただきます
広告